

PF-UA 総会報告

日時： 2017年3月15日（水） 13：30～14：30

場所：つくば国際会議場 中ホール 300

下記の議事次第に従って PF-UA 総会がとり行われ、無事終了いたしました。PF-UA ならびに関係者の皆様方のご協力に心より感謝いたします。

PF-UA 総会議事次第

報告事項

- (1) 平成 28 年度会計報告（田中信忠 会計担当幹事）
- (2) 平成 29 年度量子ビームサイエンスフェスタに関して（清水敏之 行事担当幹事）
- (3) PF-UA 活動報告（KEK 放射光計画に関して）（平井光博 会長）
- (4) 平成 29 年度活動予定（平井光博 会長）
- (5) 次期 PF-UA 会長の選出結果の報告（奥部真樹 推薦・選挙管理担当幹事）
- (6) 清水敏之 次期 PF-UA 会長 挨拶

協議事項

- (1) 会長選出に関する PF-UA 規定の追加，修正に関して
- (2) ビームタイム確保に向けたアンケート，要望書に関して

その他（司会：平井光博）

「KEK 放射光」推進に向けての総合討論

以下，報告事項，協議事項の要点をまとめます。

報告事項（1）において，賛助会員とサイエンスフェスタ展示・広告企業の減少のため，単年度赤字になっており，積極的な企業への働きかけが重要であるとの報告がありました。報告事項（2）では，2017 年度の量子ビームサイエンスフェスタの日程（2018 年 3 月 2 日（金）～4 日（日））と開催場所（茨城県立県民文化センター（水戸市））の報告がありました。報告事項（3）では，2016 年 3 月から 2017 年 3 月の期間，PF-UA が行った KEK 放射光に関する下記の活動報告がなされました。

- （2016/03/14） 拡大ユーザーグループ・ミーティングにおける KEK 放射光計画の議論を開始。
- （2016/03/16） 第 33 回 PF シンポジウムにおける KEK 放射光計画の公表に基づき，PF-UA 総会での「all-Japan での協力体制構築」と全面的な協力を決議。
- （2016/04/25） PF-UA 戦略・将来計画検討小委員会の開催。3 つの「KEK 放射光計画推進に関する PF-UA 検討委員会」（運営形態検討委員会，ビームライン検討委員会，ビー

ム利用検討委員会)と、各委員会の構成、ミッションなどを協議。

- (2016/06/08) PF-UA 幹事会・運営委員会での審議。KEK 放射光検討委員会の方針、構成、人選方法などの協議と承認。
- (2016/07/17) PF-UA 幹事会・PF-UA 戦略・将来計画検討小委員会の開催、および KEK 放射光検討委員会準備会の開催。KEK 放射光検討委員会の構成、ミッションの協議と承認。KEK-PIP の決定、ロードマップ改訂版の公開後に他施設等の委員の推薦と依頼を開始し、KEK 放射光ワークショップを開催することを承認。
- (2016/07/20) 他施設等の委員就任依頼、ビーム利用検討委員会における CDR 原稿の依頼、原稿の収集と校閲・修正の開始。
- (2016/09/09) KEK 放射光 CDR (暫定版 ver2.1) の施設からの公開
- (2016/09/11) PF-UA 幹事会・運営委員会の開催、第 1 回 KEK 放射光ビームライン検討委員会・運営形態検討委員会の開催
- (2016/09/11-12) 第 1 回 KEK 放射光ワークショップを開催。KEK 放射光 CDR (暫定版) を分野ごとに詳細検討、改定、修正案のとりまとめ、総合討論。
- (2016/10/31) KEK 放射光 CDR ver.1 の施設からの公開
- (2016/12/21) 第 2 回 KEK 放射光ビーム利用検討委員会を開催。3 月改訂に向けて、CDR サイエンスのアピールポイント、サイエンスケース・産業利用の委員会からの追加提案、一般からの募集、マルチプローブ提案等に関する協議。
- (2017/03/13) 第 2 回放射光ワークショップを開催。CDR ver.1 に盛り込まれた運営形態に関する説明と議論、TDR 作成に向けたビーム利用検討委員会で検討されたサイエンスを実現するための光源やビームラインの性能・検討事項の確認、エンドステーションの検討の「進め方」に関するユーザからの要望等に関する質疑、応答。今後の作業スケジュール等に関する議論。

報告事項(4)では、29 年度の PF-UA の活動予定「KEK 放射光計画に対する PF-UA の今後の取り組み」として、下記の方針が確認されました。

- PF-UA の KEK 放射光検討委員会と施設側の KEK 放射光検討ワーキンググループとの密接な連携のもとで、KEK 放射光計画の実現に向けて、CDR の改訂、TDR の作成の作業に協力する。
- 同時に、計画の進捗状況に関して、KEK 放射光ホームページや PF-UA ホームページなどを利用して PF ユーザのみならず全国の放射光利用者、関係各所へ速やかに情報発信を行い、各ユーザ、ユーザグループを通じて、様々な分野・領域での研究会、学会等での広報を行い、all-Japan での合意形成を醸成する。

報告事項(5)では、現会長任期 1 年前に行われる次期 PF-UA 会長選挙結果として、東京大学薬学研究科の清水敏之氏が選出されたことが報告され、清水氏からご挨拶を頂きました。

引き続き、協議事項（１）において、PF-UA 会長選出プロセスの明確化のための規定改定案が提案され、承認されました。協議事項（２）では、新たな「ビームタイム確保に向けたアンケート、要望書」に関して提案がありました。このアンケートの目的は、現在、継続的な KEK 全体の予算削減により、施設側の経費削減の努力にもかかわらず、PF の 3000 時間程度の運転経費の確保さえ厳しい状況になっていることを鑑み、4000 時間程度の運転時間の確保がユーザの教育・研究の推進にとって死活的な問題であることを PF-UA として改めて訴えると同時に、国プロ等の重要プロジェクト研究や科学研究費等の外部資金研究と PF 利用との関係をデータで示し、より、効果的な各所への要望書の資料とする趣旨であることが説明され、アンケート項目の設定等に関しては、幹事会・運営委員会に一任することが承認されました。

その他の項目として、前々日の「第 2 回 KEK 放射光ワークショップ」及び当日午前の PF シンポジウムのセッションでの KEK 放射光に関する議論を踏まえ、PF-UA としての KEK 放射光推進に向けての総合討論が行われました。大学共同利用機関あり方そのものが問われているとの説明が野村理事からあり、また、SLiT-J の進捗状況などによって「状況が大きく変わる可能性がある」との指摘が山田物構研所長からありました。様々な複合的な要素があるものの、PF-UA としては、施設との密接な連携のもと KEK 放射光計画を一致団結して推進していくことを再確認しました。

以上。